



認定特定非営利活動法人

ぶどうのいえだより



編集・発行:大隈 廣 〒113-0032 東京都文京区弥生1-3-12
TEL 03-3818-3362 FAX 03-3818-3392

No.90 2023年 冬

夕焼け雲が空を彩る秋の夕暮れ、あかね雲のあまりの美しさに、私は誰にもなく「あの雲も普通の水から出来ているんですよね」とつぶやいた。たまたま隣でそれを聞いた女性が「あら夢のないことを言うのね」とつぶやき返したのである。同じ対象を見て感動を共にしたはずなのに、その中身が全く別物だったことが強く印象に残った。それでその後も時々そのことを思い出すのである。しかしながらそのうちにふと考えた。あの時の私と隣人との感覚は実は本質的にはほとんど同じだったのではなからうか、と。

今から50年程前のあの夕焼けは、穏やかな美しさという点で私の生涯でも指折りのものであった。澄み渡った青い空に羊雲が点在し、爽やかな秋風にゆっくりと動いていた。その雲は折から傾きかけた日の光によってあかね色に染められ、もくもくとした羊毛の塊のような凹凸に応じて色合いの濃淡を微妙に変化させていた。またかすかに光を反射させながらあかね色の陽炎のようにゆらめいていた。私を一瞬夢心地にさせその美しさはまさに自然の造化の妙と言うしかない。

自然は実に神秘的である。無色透明の水を人の心を和ませる美しいあかね雲に変えてみせる。私は自然のこの力に感動する。もっと大きく考えてみれば、水が雲となり雨となり霧となり、時に氷となり、また川や海となって天地

を循環する間にどれほどの美しい景色を造り出していることかと思う。水はまた人体の60パーセントを占めており、それ故に私たちは水なしでは生きていくことはできない。植物も動物もおよそ生きとし生けるものはすべて水を必要としている。水は天地にあまねく存在して地球環境の調和を保つ働きをしているとすることができる。このような水の循環の仕組みは「なぜ・どのようにして」できあがったのか？ 私はそこに神の造化の妙を感ずるのである。

あかね雲を見てそれが透明な水の美しい変身と思ったとき、私は無意識のうちにそれを神のみ業と感じた。隣人があかね雲を見て夢のある世界を思い描いたとすると、それはおとぎの国か天国であったと思われる。その時無意識に神の存在を感じるというのはありそうな話しと思う。神のみ業の芸術に共に感動したのである。

聖職者のコペルニクスが神のみ業を探求したいと志して地動説を唱えて以来、神の座は解明された宇宙の中には無くなり、宇宙の外にあることとなった。見えないところが神の座なのである。しかし神の力は万有引力としてあまねくところに働いている。私はクリスチャンではなく他の宗教の信者でもないが神様のみ業は謙虚に信じたいと思う。

(ぶどうのいえ監事)

土屋賢一

神様への想い

シンポジウムに参加して

一般社団法人 日本移植会議

～移植医療を待つ患者を守り、提供者家族への感謝と顕彰のために行動する会～

西田 恵子

ぶどうのいえでは、外部団体との連携に力を入れています。

きっかけは心臓移植されたご家族の方から現状をお聞きしたことです。そして難病の子ども支援全国ネットワークと日本難病・疾病団体協議会の2団体をご紹介いただきました。さらに日本移植会議の公開シンポジウムのお誘いを受け、9月30日に参加いたしました。

この会議のテーマは「救える命を救うために」で、日本の医療は先進国の水準に肩を並べているが移植は遅れているので、日本で普通に行えるようになって欲しい、救える命を救えるようにしたい、という問題提起でした。

日本国内で臓器提供が圧倒的に少ないことをあげて、今のままだと「救える命が救えない」といわれていました。臓器提供できるよう日本人の心を変え、命の重要性を考えてもらいたいのです、と話されていました。今回のシンポジウムは心のあり方、生き方、文化に関わる会合で、様々な立場の話に耳を傾けて、考える場であり、「国民思想会議」であると説明されていました。

プログラムは3部で構成されて、第1部は移植を待つ方、移植を受けた方から、第2部はドナ一家族から、第3部は提供の現場から、の提言でした。

日本臓器移植ネットワークによると移植待機者は全臓器で1万6000人(心臓だけでも900人弱)に対し、日本の臓器移植件数は年間100件超にとどまっているとのこと。

外国に渡航移植することについては、その国の患者さんの権利を奪うという批判があり、WHO(世界保健機構)からも厳しく批判され、患者さんは自国で移植するよう、また自国の臓器提供を増やすように勧告されている、とシンポジウムの案内に書いてあります。つまり、移植医療を海外に頼ることなく、日本で普通に行われるようになってもらいたいと求める声があるのです。

第3部の「提供の現場から」では、患者・家族の意思決定プロセスをサポートする家族支援チームの取り組みを紹介し、終末期の意思決定のあり方を考える大切さも説いていました。

シンポジウムの内容は、ぶどうのいえの運営や理念などに直接関わることはありませんが、過去に移植待機者が何人かぶどうのいえに滞在され、これからもお迎えすることがあるかもしれないと思うと、その方々への対応と心構えができたように感じました。

******* バザーで販売しました**

10月15日(日)11時半から14時半は東京聖アンデレ教会(東京都港区)のバザーで、10月8日12時から14時半は阿佐ヶ谷聖ペテロ教会(東京都杉並)で、ボランティアの手製ジャム・刺子布巾やメモパッドなど販売しました。多くの方にお買い上げいただきました。



報告

病院訪問

大隈 廣

今年7月中旬から8月初旬にかけて、「ぶどうのいえ」の活動を知っていただくための広報活動の一環として、資料配布と病院側スタッフとの懇談のために、ボランティアの皆さんでチームを組み、近隣病院への訪問を行いました。

まず、直ぐお隣りの日本医科大学付属病院から始め、都立駒込病院、東京大学医学部附属病院を訪れ、続いて8月に順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京女子医科大学病院に伺い、各病院の地域医療や医療福祉部門の担当者の皆さんと懇談させていただきました。最近、入院期間の大幅な短縮化が進められており、退院後に近隣の宿泊先から改めて通院する患者さんも多いようです。

ぶどうのいえの特長は、入院・通院治療を必要とする難病のお子様とご家族のための施設としてスタートしていますが、現在では利用状況に対応しながら、大人の患者様とご家族のご利用もお受けしています。そうした活動状況を、リーフレットや案内書に基づき、各病院の医療ソーシャルワーカーの皆さんにご報告し、懇談させていただきました。また、患者やご家族の皆様へのご案内として、資料等の他、「QRコード」付きの「ティッシュペーパー」なども病院の患者支援室やサポートセンターに置かせていただくようお願いしました。

退院後の通院治療をはじめ、急な入院、遠方からの看病で宿泊先をお探しの方やお困りの方などに、ご説明資料としてお届け出来れば幸いです。



「医食同源 4」 —いも類—

一般にイモ類というとサツマイモとジャガイモが筆頭である。ある年代、特にご高齢の方は戦後の食糧難時代に、代用食として「農林1号」というサツマイモを蒸したり、焼いたり、芋粥などにして空きっ腹のお腹を満たしていた。70数年前のことである。

サツマイモ：漢名では甘藷、蕃薯。別名ではカライモ、リュウキュウイモ、トウイモと呼ばれる。中南米原産でヨーロッパ、中国、日本などに広まり、各地で栽培されている。世界には4000種ほど知られているが日本には40品種程である。戦後、食糧増産のための「農林1号」は、今から思えばまずい芋であったが、腹を満たすためには食べざるを得なかった。

しかしサツマイモは植物繊維がジャガイモの2倍、ビタミンCは夏ミカン並である。蒸かして食べると胃腸が丈夫になり、ストレスで食欲不振の時、便秘の時などは効果抜群である。食べ過ぎるとガスが溜まりやすくなるので、要注意である。栄養豊富なサツマイモは常食すると五臓を肥やすといわれている。さらに、柔らかい茎に解毒作用があり、外用として腫れ物に用いられる。

イモ類の中では最も多くビタミンC以外にAやB1も含まれている。胃腸の弱い人は、サツマイモを少量の生姜、棗、紅花と煮て食べると、胃を丈夫にするという。食べ過ぎるとガスが溜まりやすくなるので、要注意である。栄養豊富なサツマイモは常食すると五臓を肥やすといわれている。さらに、柔らかい茎には解毒作用があり、外用としては腫れ物に用いられる。イモ類の中では最も多くビタミンC以外にAやB1もふくまれている。胃腸の弱い人は、サツマイモを少量の生姜、棗、紅花と煮て食べると、胃を丈夫にするという。

市販されている品種には、紅あずま、鳴門金時、紅はるか、シルクスイート、安納芋などが焼き芋でも知られ、坂出金時、五郎島金時、紅赤、紅さつま、紅はやと、種子島紫、紅芋なども市場で見られる。これらの品種は、戦後の「農林1号」と比較にならないほど美味しい。

最近、甘みの高い紅はるかや安納芋などの冷凍焼きいもが発売され、そのまま食べられるので秘かなブームになりつつある。200gの焼き芋を食べると1日分のビタミンCの半分量が取れる。

数年前、地元の区民農園に当選した。3坪農園でキュウリ、トマト、ジャガイモなどを育てたが一番収穫が多かったのは、サツマイモだった。子ども達など3軒に分けることが出来た。長靴をはいた孫達が大喜びで掘っていたのを思い出す。

ジャガイモ：漢名では馬鈴薯。別名ジャガタライモ、オランダイモ、ゴショイモ、エドイモ、ハッシュイモと呼ばれている。日本では学会によって呼び名が異なる。「バレイショ」：日本育種学会、日本作物学会、日本植物防疫協会；「**ジャガイモ**」：園芸学会、日本植物学会、日本土壌生物学会。旬は5～6月と9～12月の2回ある。ビタミンCが多く、リンゴやレタスの4倍量のビタミンCがあるという。熱を掛けてもデンプンが保護するため壊れない。またカリウムも多い。

南米のアンデス山脈が原産。世界中で栽培されている。日本にはジャワのジャガトラ（ジャカルタの旧名）からオランダ船によって伝来。「ジャガタライモ」と呼ばれ「ジャガイモ」となった。「馬鈴薯」は中国名である。一説ではジャガイモは、馬につける鈴（馬鈴）に似ていることに由来する。

ジャガイモはポテトグリコアルカロイドとして総称されるソラニンやチャコニンなどの有毒なアルカロイドを含むので、緑色になった皮や芽を取り除き食べなければならない。めまい、吐き気、下痢などの中毒症状を示す。

新鮮なジャガイモの皮をむき、芽を取り除いた後、摺おろすと、絞った汁には微量のアトロピンという鎮痙作用を示す物質が含まれているので、胃や十二指腸潰瘍などの痛み止めになる。慢性便秘を改善する働きもある。この摺おろし汁は火傷などに外用として用いられ、この民間療法は日本とドイツで古くから生活の知恵とされてきた。

摺おろしの場合と同様に、良く洗浄、芽を取ったジャガイモを薄くスライスして、表面を真っ黒に焦がしたものを1日、2、3枚食べると胃、十二指腸潰瘍に効果があるという。熱い鍋などに触ってやけどをした場合、皮をむいて摺り下したものを患部に厚く塗ると、治りが早い。

主成分がデンプンである為、ヨーロッパでは、米、麦と並んで国によっては主食とされている。

市販されている種類には、男爵薯、メイクイン、キタアカリ、コナフブキ、とうや、トヨシロ、ホッカイコガネ、インカのメザメ、デジマ、農林1号、ニシユタカ、シンシア、アンデス赤など。

区民農園でもキタアカリを育てた。収穫量は多かったが、間引きしなかったので小ぶりのイモとなった。栄養が葉にいつってしまったのか葉が生い茂った。味はホクホクで美味しかった。

またやりたいと思うが、区民農園は抽選制なのでなかなか難しい。



堀内 昭（前ぶどうのいえ理事長）

絵本のお話

堀内紀子

私は、地元の図書館と児童館で絵本の読み聞かせをしています。ぶどうのいえにもたくさんのお絵本があります。

本や絵本にまつわる思い出を二つ紹介したいと思います。

一つは、以前、メキシコを旅された方からいただいたお手紙です。

メキシコシティに向かう途中で、小児がんの子どもをサポート施設「カサ・デ・ラ・アミスタ」を見学された体験が書かれていました。廊下に子ども達の写真が飾られ温かい雰囲気の家だったそうです。

メキシコシティの病院で治療を受けるため、メキシコ各地から飛行機で子どもさんが家族と来る。旅費も援助があり、施設の運営費は政府からの援助が30%で、あとの70%は寄付で賄っている。

いただいた資料によると「ハウス活動の原点は、近寄ること、他者への愛。総合的な援助をすることにより、がんを患う子ども達と痛みを分かち合い、家族を育て、健康を取り戻す機会を与える。命を共に喜ぶことがコンセプト。」

活動の一つに「読書セラピー」がありました。病気の子どもの興味や生存率に影響する要素などを調べ、情緒面に応える方法として読書が選ばれて正式な活動になったそうです。「机を囲んで、キラキラした瞳が待ち受ける時、本は単なる本ではなく、驚きを生み出す仕掛けとなり戦士の盾となって痛みから守ってあげる。それは世界が瞬時に広がる窓、一杯の水、枕、しっかり歩める靴紐となる」とパンフレットに書いてありました。このハウスの基本姿勢を 実践する活動だと思いました。(写真は、ハウスの支援グッズ)



もう一つは、ぶどうのいえのプレイルームにある絵本のお話です。その多くは児童文学者の中川李枝子様からいただいたものです。初期からぶどうのいえを支援して下さっていますが、あるとき箱一杯の絵本を送って下さいました。

その頃私は、公共図書館のサービス低下の問題で読み聞かせや文庫活動の仲間と悩んでいましたので、絵本のお礼状にその愚痴も書いてしまいました。すると、お手紙をいただきました。図書館の件を慰めて下さり、さらに『ぐりとぐらとすみれちゃん』を書かれたエピソードを教えてくださいました。

すみれちゃんのモデルは知り合いのお子さんで、6歳で亡くなったそうです。絵本の中には、世界でひとつしかない「すみれかぼちゃ」がでてきます。野ねずみのぐりとぐら、すみれちゃん、森の仲間達は、みんなでかぼちゃのごちそうを食べました。すみれちゃんが帰ったあとで、ぐりとぐらはかぼちゃの種を植えました。

私はおはなし会でこの絵本を読むとき、ぶどうのいえに滞在したお子さん達を思い浮かべます。元気になったお子さんも亡くなったお子さんも、みんながかぼちゃの種を私たちに託したと思うのです。絵本にまつわる二つのエピソードは、私の大事な宝物です。

★ ありがとうございます

寄付・会費納入の方々

(順不同・敬称略)

鵜飼史郎 南みよ子 田上緑 石渡康弘 東京教区 福井和彦 守口ぶどうのいえ 倉石昇 野島千恵 大瀧留理子 ボランティア有志 大隈廣 吉川由希子 及川彰 聖オルバン教会 木村義介 鵜飼良機 鵜飼久美子 福本豊子 大隈廣 立教英国学院卒業生によるチャリティーコンサート天野美穂 中村兆成 内ヶ崎義一郎 織田恵子 工藤幸子 加古結子 戸倉淳 大島とも子 原田耿子 別所文雄 村松夏子 宮尾春世 鵜飼良機 鵜飼久美子 大城敦 堀内紀子 渋谷聖ミカエル教会姉妹会 永野訓男・つね 長松康子 ボランティア有志 橋本真美子 木村義介 大隈廣 宮崎信也 景山恭子 仁科昌子 上西正美 吉田あこ 澤井美登里 橋本祐之

(2023年7月1日～10月31日)

★ ありがとうございます

物品ご寄付の方々

(順不同・敬称略)

NATURAL HAIR (タオル) 吉川由季子 (食品) 長内英樹 (洗剤) 渡辺忠寛 (衛生用品) 花王 (株) (衛生用品他) 仁科昌子・朋子 (タオル) 野島千恵 (果物) 鵜飼久美子 (果物) 見目政隆 (文具) 奥野貢 (果物)

(2023年7月1日～11月10日)

総会のお知らせ

第24回 運営会員通常総会

2024年3月9日(土) 午後1時より

ぶどうのいえ 2F 食堂ホールにて

ご寄付のお願い

来年度に向けて、振込用紙を入れさせていただきました。
ぶどうのいえは皆さまに支えられて運営しております。
どうぞよろしくお願ひ致します。

会計担当 鵜飼良機

編集後記

今年は、コロナ禍も下火となり、ぶどうのいえだよりも3回発行することができました。皆さまとぶどうのいえを結ぶ大事なコミュニケーションツールです。これからも編集に力をいれてまいります。

寒さが増すとインフルエンザなどが流行ります。お気をつけてお過ごし下さい。

西田 堀内紀

認定NPO法人 ぶどうのいえ

ホームページ

<https://www.budounoie.jp/>

E-mail

jimukyoku@budounoie.jp

郵便振替口座名

特定非営利活動法人ぶどうのいえ

郵便振替口座番号 00120-2-540161